

昭和大禮寫眞帖

今年は昭和大礼から 90 年にあたります。大礼とは天皇の即位にかかる一連の儀式のことです。戦前の皇室典範では、大礼は京都で行うことが明文化されていました。

関連行事は一ヶ月程度に及ぶため、その間、政府首脳も京都に常駐しました。また、各国の要人も入洛し、式典に参列しました。この期間中の京都は、さながら首都に返り咲いたような賑わいを見せていました。



駅前発御前

大礼の挙行にあたり、京都府は内外のVIPに対応するため、細心の注意を払い、準備と運営にあたりました。『昭和大禮寫眞帖』はその経過を撮影したもので、当時の様子をつかうことができる貴重な資料です。

例えば、京都市内の各施設は国の機関の臨時出張所となりました。府庁に内閣と内務省、上京税務署に大蔵省、商工会議所に商工省、京都帝国大学に文部省の看板がかけられた写真もあります。内閣が置かれた府庁内では閣議が開かれ、田中義一首相以下、閣僚の集合写真も写されました。このほか、皇族の宿所に選ばれた京都の邸宅や京都ホテルに泊まる国賓、府庁前をはじめとして、各所で開かれた園遊会の様子など、入念なもてなしの様子がわかります。



内閣と内務省出張所



大礼参列の田中義一首相と各大臣

また、『昭和大禮寫眞帖』はVIPの様子だけではなく、京都の人々の様子を撮影した写真もあります。大礼に合わせて、府内各町村が町村をあげて献上品を運ぶ様子や、高齢者のために設けられた行幸列の観覧席なども撮影されています。この当時、70歳ならば安政5年（1858）生まれ、80歳ならば嘉永元年（1848）生まれになります。この年齢の人々は明治初期に天皇が京都を離れていくことを実体験しているだけに、京都での大礼挙行に一方ならぬ想いを抱いて臨んだことでしょう。



御苑内にて高齢者奉拝

現在、京都府ではこの『昭和大禮寫眞帖』の画像などを用

いて皇室と京都の縁を広く紹介する動画を下記により公開
しておりますのであわせてご覧ください。

[2ch.クローズアップ！京都府「双京構想」](#)

(2018年5月20日公開)